

氷室作太夫家住居を再発見する プロジェクト かから版

第6号
H30.1

発行/津島の
宝物ひろめ隊
津島市本町1
丁目26番地

●プロジェクトの内容

津島の宝物広め隊は、まちの地域資源は津島の宝物と考えその魅力を広める活動をする市民活動団体です。氷室作太夫家住居の価値や魅力を再発見し、利活用案とするために必要な整備案を取りまとめて、市民の皆様始め、一般の方々に発信する活動を進めています。



伊勢の伝統的町家は切妻妻入り。いつからか、神宮の御正殿が平入なので恐れ多いため庶民は妻入りが多いと言われる。

旧御師丸岡宗太夫邸の保存活用事業

- 伊勢市内に現存する唯一の御師邸。平成24年にNPO法人が発足し、修理、清掃などの環境改善活動、一般公開にあわせた取り組みを行っている。
- 邸内には古文書も多く残されており、旅人をもてなした献立帳から江戸時代の料理を再現し試食する会なども行っている。建物の保存と同時に、古文書の保存も非常に大切である。

●第6回活動報告 (1/13)

平成30年1月13日(土)にプロジェクトの第6回目を開催し、事務局を含め13名の参加がありました。

テーマ：「伊勢の町並み保全型まちづくり」

講師：高橋 徹 (たかはしとおる) 氏

一級建築士、(有)高橋徹都市建築設計工房主宰、NPO法人伊勢河崎まちづくり衆理事長、NPO法人全国町並み保存連盟常任理事、NPO法人二見浦・寶日館の会副理事長 他。

●講師のお話～一部を紹介します～

伊勢&河崎の町並み保全型まちづくり



- 20年ごとの伊勢神宮の式年遷宮が歴史のポイントになる。式年遷宮が近づいてくると、まちづくりへの関心が高まってくる。
- 伊勢河崎のまちづくり活動は、勢田川改修計画への反対運動から始まったが、市民参加型都市マスタープラン作成などを経て、現在は協同のまちづくりへとステップアップしている。
- 昭和57年開館の「河崎まちなみ館」の存在が、活動継続の力になった。活動拠点があることの重要性。
- 平成5年オープンのおかげ横丁の観光地としての成功も町並み保全型まちづくりの追い風となった。
- 平成11年には「NPO法人伊勢河崎まちづくり衆」が誕生。平成14年には公設民営の「伊勢河崎商人館」がオープンし、NPO法人が管理運営を行っている。



旧御師丸岡宗太夫邸



丸岡家献立表食事体験

二見浦・寶日館の保全再生活動

- 「NPO法人二見浦・寶日館の会」は、二見浦旅館街の再生・活性化をめざした活動をしている。シンボルとなる寶日館(ひんじつかん)の管理運営を行っている。



寶日館の内部



結婚式の聖地化事業の推進

山田羽書 (やまだはがき)

日本最初の紙幣。現在の地域通貨にあたる。1610年頃、伊勢の商業の歴史とともに生まれ、全国に広がった。伊勢では御師の信用力が高かったことが発行の背景にあったと考えられている。伊勢河崎商人館で紹介展示をしている。(写真：日本銀行蔵の山田羽書)



●次回のお知らせ

2月10日(土)午後1時30分より、「取りまとめ会」を津島まちや・まちなみ再生機構事務所(津島市本町1丁目26番地)の2階で開催します。講師の西澤泰彦氏(名古屋大学教授)にお話をさせていただき、参加者の皆様には、この会に参加して今まで学んできた事等をお聞きしながら、取りまとめをします。参加希望者は090-4257-0011もしくはメール(info@tsushima-machiya.net)迄